

第7回藤沢市総合計画審議会

と き 2010年(平成22年)2月6日(土)
午前10時～正午
ところ 藤沢市総合防災センター6階 第1会議室

(第1部)

次 第

1 開会

2 議事録確認

3 議事

(1) 新総合計画基本構想第二次素案への意見提案の取りまとめについて

(2) 新総合計画基本構想(案)について

(3) 答申について

4 その他

書記(事務局)
藤沢市経営企画部経営企画課
電 話 (0466) 50-3502
ファクス (0466) 50-8402
e-mail kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

第6回藤沢市総合計画審議会議事録

と き 2010年（平成22年）1月24日（日）
午前10時
ところ 藤沢市労働会館ホール

1 開 会

2 議事録確認

3 議 事

- (1) パブリックコメントの実施結果について
- (2) 第5回地域経営戦略100人委員会の開催報告
- (3) 新総合計画基本構想第一次素案への意見提案の取りまとめ結果について
- (4) 起草部会報告
新総合計画基本構想第二次素案について
- (5) 地域経営戦略100人委員会との合同協議について
- (6) 答申までのスケジュールについて
- (7) その他

4 その他

事務局 本日の出席委員は 24 名のうち 17 名で、過半数の出席をいただいておりますので、会議が成立したことをご報告いたします。

(資料の確認)

前回議事録は、後ほどご確認のうえ、訂正等がございましたら、1月29日までに事務局にお知らせいただきたいと思ひます。

それでは、これからの議事進行は曾根会長にお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

曾根会長 ただいまから第6回総合計画審議会を開催します。

本日も円滑な議事進行に務めながら、委員の皆様のご活発なご意見をいただきたいと思ひますので、ご協力をお願いします。

はじめに、本会議は公開としております。傍聴希望者がおりましたら、案内してください。(傍聴者なし)

前回議事録の確認については、事務局の説明のとおりとさせていただきます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

曾根会長 早速、議事に入ります。

(1) パブリックコメントの実施報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局 新総合計画の第一次素案に対してパブリックコメントを昨年12月14日から本年1月13日に行いました。(資料2参照)

曾根会長 事務局の説明が終わりました。当審議会としてこれらの意見に対して考え方、意思決定をして公表していかなければなりません。事務局の回答に対してご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

特にないようですので、事務局の回答をもってパブリックコメントへの回答といたしたいと思ひます。

××××××××××××××××××××××××××××××××××××

曾根会長 (2) 第5回地域経営戦略100人委員会の開催報告及び(3)新総合計画基本構想第一次素案への意見提案の取りまとめ結果について、一括して説明をお願いします。

事務局 第5回地域経営戦略100人委員会は昨年12月12日に開催され、地域の子育て、福祉・医療、安全・安心、環境問題等、その地域が実感する生活課題や活動実感についての気づきの収集を100人委員会なり地域経営会議が行っており、先行的に進めている4地区から収集状況の報告を行いました。(資料3参照)

曾根会長 地域経営戦略100人委員会のコーディネーターから補足説明がありましたらお願いします。

玉村委員

現在、各地区、各領域に対して丹念な調査をしている状況ですが、同時にそれぞれの地区、領域ごとにどういうやり方をしていくか検討しながら、それぞれの切り口で集めております。調査という切り口からですと、しっかりサンプリングをして、その方に聞くことでもかまわないのですが、今回、地域経営会議の中で実感したことをさらに共有していくといったことを考えると、できるだけどういうやり方を、丹念に聞けるかにもこだわってきたものであります。これに関しては1月末に集めて、慶應大学が支援をしてデータ化して、次の検討に役立てていきたいと考えております。

事務局

第一次素案に係る意見提案ですが、その内容は12月12日の合同協議での意見、地域経営戦略100人委員会委員一人ひとりから出された意見、庁内新総合計画検討会議、わいがや会議、市民電子会議室の意見提案を取りまとめたものです。(資料4参照)

主なご意見等を要約しますと、1枚目から7枚目は、12月12日に開催された当審議会と100人委員会の合同協議いただいた意見提案のすべての内容で、84ございます。その内容の大半は基本計画に絡む、あるいは地区別まちづくり計画に関するものですが、それらも含めて要約いたしました。特に基本構想はできるだけわかりやすく簡素な文章表現に心がけてほしい。難しい言葉や語句は解説してほしい。漢字で「藤沢」「ふじさわ」「湘南ふじさわ」等々を整理する。重複する文章は改善してほしい。基本構想の第一次素案の構成をもう少しわかりやすく、「文教地区」という表現を使ってほしい。「ふじさわ総合計画2020」の検証を載せるべきである。13地区の経営会議がスタートすることによって、地区別まちづくりで地域間の格差をどう考えるか。市民センター・公民館への予算・権限と地域経営会議がまちづくり計画を踏まえて、地域主体のまちづくりを進めていくときの責任をどう整理していくのか。一行政ではでき得ない課題を隣接する市町との広域連携で積極的に進めるべき。行政だけでなく市民、活動団体ともっと交流すべき。公共投資の有効活用をもう少し考えるべき等々を事務局の回答も一緒に記載しております。

次に、8枚目からは100人委員会委員からの意見提案が25項目で、同様に文章をわかりやすく、専門用語の解説、「藤沢」、「ふじさわ」等の使い方の統一、本庁の縦割り組織を排除し、地域主体にやるべき。子どもの環境づくりについてはさまざまな視点で論ずるべき。新総合計画基本構想の「私たちの政府」という理念を踏まえれば、昭和30年代に策定された「市民憲章」等も見直すべきではないか等々貴重なご意見が寄せられております。

9枚目からは庁内新総合計画検討会議からの意見が39項目寄せられて

おります。基本構想については、議決部分と資料部分に分ける範囲を明確にすべき。基本構想の構成を見直して、めざすべき全体像が見えるようにする。難解な表現や学術的な言葉については平易なものにする。現実には厳しいが、夢が持てる書きぶりに整理する。特別な言葉には説明をつける。また、基本計画に対する意見も多数ありました。

(資料4-2参照) また、わいわい・がやがや・わくわく会議からの意見では、できるだけ絵や図を入れてわかりやすく解説する。「私たちの政府」という仕組みで一緒に知恵を出すという思いを入れてほしい。カギ括弧の使い方を整理する。文章の反復部分を整理する等々の意見が寄せられております。

15枚目から24枚目は、1月6日から1月14日までの市民電子会議室への件数が11件で、独自の言葉を使っているのが、全体として定義や言葉の整理をしてほしい。用語、表現を統一して文章のブラッシュアップを期待する。基本構想の構成、体系そのものの整理をし、市民にピンと来る言葉で書きぶりを整理する。藤沢ならではの基本計画になるかどうか見守っていききたい。新たな構想は総合的にバランスよく具体化していくように等々の意見が寄せられております。

曾根会長

事務局の回答も含めてご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

特に、前回の審議会、合同会議で出てきた、もう少しわかりやすく書いてほしい、新しい用語に対する説明、すっきりした体系づくりなどは共通したご意見かと思えます。

特になければ、事務局案は今までの議論に沿ってつくられていると思いますので、このような回答でいくことのご了解をいただいたということにいたします。

XX

曾根会長

次に、(4) 起草部会報告 新総合計画基本構想第二次素案についてですが、第一次素案についてパブリックコメント、その他さまざまな会議体からご意見をいただき、それらの意見を参考にして起草部会を1月13日に開催し、第二次素案の原案をまとめました。討論の経過等について事務局からお願いします。

きょうの中心部分でありますので、よろしく申し上げます。

事務局

パワーポイントを使い、意見提案のプロセス、意見提案の論点整理、第一次素案と第二次素案の構成の変更点についてご説明し、その後、資料5に基づき具体的な内容をご説明させていただきます。

●第一次素案については12月12日の合同協議、12月12日から1月13日のパブリックコメント、1月6日から14日までの市民電子会議室、庁

内検討会議については2回にわたって行い、庁内プロジェクトを通じて各部門からの意見、わいがや会議からの意見を含めて起草部会で練り上げてきたわけであります。

● どういう論点でこれらの意見を整理したかですが、基本構想の範囲ということで、素案の中の議決事項として基本構想に位置づけていく部分と、参考資料として整理していく部分との分けをいたしました。2点目は、基本構想の構成も重複した表現、重複することによって全体像がなかなか見えなかった部分をわかりやすくいたしました。できるだけ簡易な文章表現にする。ただ、これから出てくる藤沢を取り巻く現実の予測と20年後、どういう希望を持って進めるかの切り分けをいたしました。第二次素案の中には一般的に使っている用語の解説がページ下段、今回の総合計画づくりの中で新たにつくりあげた言葉については、文章の中に入れ込んでそれぞれ解説をしております。それから「私たちの政府宣言」をなるべく簡素化、わかりやすくする。「ふじさわ総合計画2020」、特に地域経営戦略100人委員会からのご意見等も寄せられておりますので、その総括等を入れさせていただきました。

基本構想の仕組みとして、地域経営会議等が行うまちづくりの仕組みを総合計画の中で位置づけさせていただきました。

● 第一次素案の第1章は「私たちがめざす藤沢の未来」ということで「私たちの政府」宣言、総合計画の枠組と基本方向、基本構想、第2章は「まちづくりの沿革と取り巻く状況」、資料編で三層構造のプロセスを載せておりましたが、今回は、本編の基本構想、第二次素案が3章立てで、今まで資料編であったものを別冊にいたしました。したがって、第1章では「私たちがめざす藤沢の未来と新しい総合計画」「Ⅰ はじめに～私たちがめざす新しい総合計画～」を新規に挿入し、その後Ⅱで、従来の第1章の2番目にあつた「総合計画の枠組と基本計画」をまとめた「新総合計画の枠組と策定プロセス」を入れさせていただきました。

● 第2章が「私たちの基本構想」で、「私たちの政府」宣言、将来像と基本理念を入れております。

第3章は「藤沢づくりの背景と現状」です。「ふじさわ総合計画2020」では、この三層の部分が頭に来ていますが、あえて後ろに持って行って、認識は1編で語っています。そして「Ⅰ、新しい総合計画策定の必要性」の中で、現「ふじさわ総合計画2020」の検証をさせていただきました。

そして「これまでのまちづくりの沿革」、「藤沢を取り巻く現状と課題」ということで、藤沢づくりの基本条件、藤沢市の現状と課題としております。

●別冊で、今後1年、実施計画をつくるまでのプロセスも踏まえて加除式スタイルにいたしました。第1章は「三層構造からはじまる「藤沢づくり」」として、発意プロセス、各会議体の開催経過が順次加除されていきます。第2章は、基本計画について今まで三層構造の会議体で議論してきたことを整理しております。第3章は、これから行う基本計画、第4章はこれから行う実施計画は三層構造で進めていく、それぞれの議論経過を整理させていただいたということでございます。

次に、「藤沢市新総合計画基本構想（第二次素案）（案）」をご説明いたします。（資料5朗読参照）

曾根会長 前回の第一次素案にご意見、コメントをいただいたものが第二次素案で相当変わっていることがおわかりいただけると思います。起草部会の各委員から第二次素案について、補足のご意見をお願いします。

川島副会長 起草部会でも100人委員会の意見や審議会のご意見、多様なパブリックコメントを踏まえて1つ1つ易しく定義をつくったり、「藤沢」という言葉についても多面的に意見を出して、第二次素案ができ上がったと思っています。藤沢に関わるご意見ですから、厳しいご意見から擁護のご意見等いただき、それを整理するため事務局も正月返上で当たられたと伺っております。大学の点数で言うとAの80点という印象です。起草部会としても大変苦労したものができつつあると思っています。

小松委員 三層構造について、基本構想、基本計画、実施計画の3段階であるという説明が加わったことと、現総合計画2020との関係が明確になったことが評価されると思います。

玉村委員 前回の審議会に比べ、かなり違うものになったと皆さん、実感されたと思います。さまざまな方法で市民、行政からコメントやご指摘をいただいたものを丹念に検討した結果ですが、正直、まだわかりにくい点があると思いますけれども、パブリックコメントや合同協議、市民電子会議室等さまざまな場で話し合われたことも含めてこういう形になってきていることは、藤沢として今後も期待していい1つの節目と思っています。他の自治体を見ても基本構想では、「こういうことをやります」という約束を書いてあるような形式が多いのですが、藤沢の場合、今後、さまざまなことに取り組んでいくためには、「こういう観点で取り組んでいきます」という方向性、考えるべき基盤をつくっていることが期待できるので、より具体的な実践につながっていくのではないかと。そういう意味で、基本構想以外にもかなり活発になされてきたことは、今後、期待できると思っています。

曾根会長 パブリックコメントや100人委員会からも「私たちの政府」というのが

いきなり出てきてびっくりしたという意見が出ていたわけです。「政府」とは日本国政府しか思っていない人にとっては、人民政府ができるのかとびっくりした方もいらっしゃるかもしれませんが、これは地方分権の流れの中で、政府の審議会ですら初めて「地方政府」という言葉が使われたわけです。「政府」というのは中央政府だけであって、地方は地方自治体であると、政府という言葉を使ってはいけないというのが明治以来ずっときたわけです。地方政府という独立した政府を認めるようになって、今後、その方向に進んでいくと思います。さらに民主党政権になって、地方主権、実は麻生政権末から「地方主権」という言葉は使われているのですが、私はまだ使っていません。この素案でも「地方主権」という言葉が世の中で使われているということは書いてありますけれども、「地方主権」という言葉を使っていいかどうか、私も憲法学者などと相談しながら、まだ踏み切れないところがあります。というのは、通貨と外交を除く権限を全部地方に任すという主権概念が成り立つのかということ、今のところあり得ない。「地方政府」という言葉までを中央政府が使うようになって、地方政府というのは、単に地方分権の文脈の中で、中央対地方の、地方にも政府がありますと、そこでおしまいになっていいのかということ、そこから先、その地方政府の実態は何かということ、今までも選挙で市長を選び、議会議員を選び、あるいは行政が行ってきた、そこだけの政府、「ガバメント」の訳は、私が言っているのは英米系で、ドイツ系というか、日本の過去の行政法が使っていた政府というのは、「行政府」を政府と呼びまして、それ以外の広いところ、例えば裁判所を含めるような政府という言い方はしないわけです。英米系ですと「政府」というのは「シティホール」、うちの政府であると、よく市議会へ行くとアメリカなどの市民は、「俺の税金でつくっているもの」ということで「私たちの」「アワガバメント」という言い方をするわけです。その政府をさらに藤沢は実態的に市議会、市長、行政プラスアルファでボランティアを含めいろいろな仕組みが今まで行われてきた。これは全部仕組みなんです。ですから、「私たちの藤沢」は当たり前なんです、この総合計画を実施するためにどういう仕組みが必要かということ、それは行政だけではなくて、従来の政治の機能である首長、議会が行政、それ以上の人たちの参加が必要な、つまりみずから動く、あるいはボランティアの人たち、従来のいろいろな参加の形態があつて行ってきたけれども、それ以上のことも含んだものにしないと、この総合計画は動きませんと、これは全部私たちの仕組み、別の言葉で言うと「仕組み」を「政府」という言葉で呼び替えていると解釈していただければいいのでしようけれども、こんな長い説明は一言では無理です。しかし、この文章

をお読みいただくと、そのこのところがつながって書いてあるので、改めてこの辺の説明をどのくらい繰り返さなければいけないのかと思いますけれども、私たちが動かす仕組み、それを私たちの政府と呼び替えていると考えていただければいいと思いますが、日本政府に対抗する新しい独立政府を藤沢でつくるというものではありません。

それでは、この第二次素案について、ご意見をいただきたいと思います。

島津委員

大変わかりやすくなってきたと思います。基本構想を読んだときに、構成上いかがかなと思われるところが何点かあるので申し上げます。7ページの「計画策定のプロセス」ですが、ここまで詳しく要るのか、むしろ資料編に譲ってもいいのではないかという受けとめです。

それから25ページの「新しい総合計画策定の必要性」は、現総合計画2020の検証がわかりやすくされているが、28ページ以下は、基本構想の本文ではなくて資料編でよろしいのではないか、ちょっと細かいのではないか。そのかわりに資料編の15ページ～17ページの「新たな藤沢づくりの課題」を28ページ以下に持ってきて、その課題に基づいて13～14ページの新たな藤沢づくりの視点が出てくるというような流れにした方がストーリーとしてすっきりするのではないかという意見です。

曾根会長

全体のつくり方、構成についてご意見がありました。重要な問題ですので、全体的に整合性が取れるのかどうか、事務局、どうですか。

事務局

7ページについて、総合計画の基本構想の中で三層構造の仕組みのようなものをきっちりと位置づけて進めてきたという思いがありますので、分けてシンプルにするのか、その経過を資料編にするのか、ちょっと検討させていただきたいと思います。

確かに28～29ページは、まちづくりの沿革ですので、特に市民自治の歴史がどうなるか、今まで培われてきた市民集会から地域経営会議につながるものがどうなってきたのかという意味もありますので、後ろに送り込むことも含めて検討させていただきたいと思います。

それから資料編で書かれている「新たな藤沢づくりの課題」を本編に持ってきてはという点は、なるほどという部分もありますので、よりわかりやすくなる方向で検討させていただきたいと思います。

東海林委員

これは最終的に市民に配布されるものなのか。市民の目線で読んでみたときに、まず、なぜこんなことをするのかという根拠とか背景が早く知りたいという感じからすると、25ページの具体的なところを読んで、こういうふうだから、こういうことをやるんだということがすんなり入ってくる。大まかな流れは「はじめに」に書いてあるけれども、もうちょっと具体的なものがあれば、すっと入っていくのではないか。漠然とした感じで

書かれていると、この先読んでみようという気にならないのかなという感じがしました。

もう一点は、最後にどういう冊子になるのかわからないけれども、それをイメージさせるような挿絵や漫画形式なりが入っているとわかりやすいのかなという感じを持ちました。

秋山委員

全体を読むと大事なことが書かれているけれども、1ページの「はじめに」しか読まない人も大勢いると思うので、なぜ総合計画が必要なのか、今回、何が目玉で、何をねらっているのかがわかりにくい。「新しいプロセス」というのがポイントだと思うけれども、なぜその新しいプロセスが必要なのか、これによってどういうよいことがあるのかということが、1ページを読んだだけでは見えないので、「はじめに」をもう少しインパクトのあるものに、全体が入ってくるようになると、もっといいのではないかと思いました。

曾根会長

お二人のご意見は、何で今、総合計画をつくらなければいけないのか、今のままでいいのではないかという人に対して、「今、つくらなければいけないんだ」というメッセージを強烈に出せというご意見かと思います。

塚本委員

第2次素案は大変いいと思いますが、これは2月定例議会で議決しなければならないから、第2次素案を大幅に構成を変えたりするのははっきり言って無理だと思います。これまでに煮詰めておくべきだったのではないかということはさて置いても今の第2次素案はよくできていると思います。今までの意見が組み入れられた構成になっていると思います。私もこれを読み込んだときにそのよさがわかりました。読み込むという作業をしないと、そのよさがわからないものであるという感じはしました。前回の総合計画審議会で申し上げたけれども、中学生ぐらいが理解できる内容で、わかりやすいものにするものと深みのあるものをつくっていくという相矛盾しているものを1つにしようと思えば、深みがあってわかりやすいものにしようと思えば、当然、解説なりが増えてきてボリュームが増えてしまう。広く市民が読みやすいものとなると、ボリュームの少ないものの方がいいけれども、基本構想というものは、薄っぺらいものであってはいけません。将来の藤沢市の方向性を決定するものであるがゆえに内容が深いものであって、なおかつとっつきがいいものをつくるという意味では、正月返上での事務局のご苦勞が伝わってきます。ただ、前回提示したように、これはこれで深いもの、また、わかりやすくしたものとして、これを基本にして、概要版若しくはキッズ版というもので広い世代にこれを中心として、さらにもっと分かりやすい、例えばイラスト等もあって、中学生はキッズ版を見れば基本構想が大まかに入ってくる。仮に、今の中学生がこの

基本構想を理解できないところがあったとしても今後5年、10年なり経験を積む中で、改めて読み直してみたときに「こういうことだったのか」とわかるものがあればいいのではないか。先のことを考えるのであれば、ギッズ版とか概要版というものを議論する課題に上げるのか、上げないのか。あくまでもこれをつくったら、あとは行政がギッズ版、概要版をつくれればいいととらえるのか、そういうところの議論を深めていただければと思います。

加藤委員

具体的な中身についての意見ですが、13ページの「市民力」「地域力」「行政力」を發揮する「藤沢づくり」の下段に「13 地区の地域経営会議と、本庁から「予算」と「権限」を移譲されて「行政力」を發揮する市民センター・公民館が連携しながら、地域責任に基づく地域自律型の「藤沢づくり」を進めていきます。」となっているが、先日の合同協議でのテーブルの意見にもあったけれども、「市民力」という言葉が、ボランティア、市民を安上がりで働かせるのかとか、権限についてははっきりと明記してほしい、責任も地域経営会議の委員の方から、権限と予算が移譲されて事業を決定するとい役割を担うわけだから、何か問題があった場合、その事業に対しての責任が地域経営会議に来るのではないか、それは不安だし、困るということだと思いますので、地域責任ですと、地域経営会議で決めたからでしょうとなってしまっておかしい。行政の責任共有という点がここにはない。14ページに「行政力を發揮して」とあるけれども、言葉だけになっている。責任という点をもう少し明確に行政の責任を示すべきではないかと思います。

曾根会長

この読み方ですけれども、13ページの下段と14ページのところが、行政責任がないとは読まないが、分権化された部分を地域が責任を負うわけだから、行政も当然その責任を負っていると、地域も自分たちがああやりたい、こうやりたいと言ったからには、当然その責任を負うという二重の意味が入っていると思いますが、行政としてどうですか。

新井委員

ここに書かれている「市民力」「地域力」は、今、進めている地域経営会議等の考え方の一環かなと思います。地域のことは地域で解決する地域完結型の課題解決の手法だと考えます。権限とか予算は責任と裏腹のものだと思っています。要は自分たちの将来のことは自分たちで決めていくと、それを実現するためには地域に権限と予算を降ろして地域が主体になって問題を解決する。また、自分たちの将来像もできないということから、地域完結型の課題解決の手法として、前段に書いてある「市民センター、公民館と連携しながら」という表現もありますので、この表現については、地域完結型のまちづくりを進めるための表現で、今進めている地域経営会

議そのものが自分たちの地域の課題は自分たちで解決していく、それは市民の総意によって解決していく。また新しいまちづくりも自分たちの地域のことは自分たちで決定して、従来の中央集権的な考え方でなく、地域のことは地域で、市民が主体で決めていく。そのための手法が書かれているということで、地域完結型、分権型の市政運営の柱としてはこの表現でよろしいのではないかと考えます。

植原委員

関連して、地域に権限移譲とか地域主体でやることが計画に強くうたわれている。一方、その対極となる市全体としてのものが、恐らく地域と書いてないところは全部市が主体となってやるものと思うけれども、そこが明確に書かれていないので、地域に投げっぱなしなんじゃないかと市民が受けとってしまうのではないかと思うので、主体を地域がやるのか、市がやるのかを明確にするとわかりやすくなるのではないかと思います。

それから細かい点ですが、20 ページからの「藤沢づくりのめざす方向性」を読むと、多少タイトルと文章に違和感がある。例えば7番の「藤沢づくりを支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生」のところで、実際には「めざします」という結論になっているのは、地域と経済の活性化なんです。これは地域経済、地域の経済活性化なのか、地域の活性化と経済の活性化なのか、その辺があいまいになっていて、タイトルと合っていない。さらに、都市構造の再構築というのは、「必要となります」とあって、「めざします」とは書いてない。

8番の「公共資産の有効活用と社会資本の長寿命化」でも違和感があるのですが、内容では社会資本の有効活用と社会資本の長寿命化なので、内容を精査していただければと思います。

曾根会長

見出し部分と中の文言がずれているとしたら修正は可能だと思います。

石井委員

市民目線で見たときに、今回の藤沢らしさというか、取り組みの新しい面として「私たちの政府宣言」というのは非常に注目されると思う。こういう方向性とか手続論が前面に出ると、国の分権もそうですけれども、団体自治の改革の話を進めると、国民が自分の生活が分権で、実際にどうよくなるのかという部分で想像がなかなかできないので共感が得られないというか、国全体としていまひとつ盛り上がらないということもあって、この「政府宣言」についても恐らく藤沢市民は同じような感覚を抱くのではないかと思っていて、これが今回の基本構想の要であるということもわかるので、市民から見た違和感をどうしていくのかというのをもう少し工夫する余地はあると思います。

先ほど、キッズ版とか概要版でわかりやすくしていくというお話があったけれども、この「政府宣言」にもう少し高齢者、子どもが読んでわか

るような平易な文章表現にしていく必要があると思います。行政用語、学術用語が多いと思うので、それに解説をつけるよりも読んだだけでわかる平易な言葉に置き換える工夫がもう少し必要ではないと思います。また、「宣言」ということなので、1 ページ以内に収まっている方が見えて非常にわかりやすいし、理解されるような気がするので、全体を読むと重複した表現等もまだあると思うので、そこを削って1 ページに収めていくことも必要だと思いました。自分たちの政府になることは大変な面もあるけれども、楽しい面というか、まちづくりに参加することは悪いことではないというような印象を与える文章がちょっと入っているとさらにいいと思います。

曾根会長 この審議会の当初予定では、次回が答申の提出となっています。今いただいたご意見と午後から行う地域経営戦略 100 人委員会との合同協議、1 月 30 日の「藤沢のこれから、1 日討論」「市民 1000 人調査・200 人討論」と 2 月 4 日の市議会議員全員協議会のご意見を参考にして、次回の審議会に今回の案を元にした答申案をお諮りしていきたいと思いますので、今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 スケジュールについてご説明いたしますと、本日、この第 6 回総合計画審議会の後に、午後 1 時から 4 時まで総合計画審議会と地域経営戦略 100 人委員会との合同協議を行います。

その後 29 日までの期間に庁内検討会議、1 月 30 日には午前 9 時から午後 5 時半まで 300 余人による「藤沢のこれから、1 日討論」、今まで 1000 人調査、200 人討論とっていたのですが、ここでの議論の後、2 月 4 日の市議会議員全員協議会に第二次素案の説明。2 月 6 日の第 7 回総合計画審議会に答申をいただいて、2 月定例議会に基本構想を上程する予定であります。非常にタイトなスケジュールとなっていますが、よろしく願いいたします。

曾根会長 非常に時間が限られた中で答申案を作成するわけですが、私は総合計画審議会の会長であるとともに、起草部会の部会長も兼任しておりますので、これからの修正等は、ご一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

曾根会長 それでは、ご意見は十分お伺いしておりますので、私の責任で変えられる範囲で変えたいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

曾根会長 次に、(5)(6)を一括して進めていきたいと思ひます。

事務局 (5)地域経営戦略 100 人委員会との合同協議について、ご説明いたし

ます。(資料6参照)

本日この会場でスタイルを変えて、午後1時から4時まで行いたいと思います。

協議の概要ですが、1点目は、第一次素案に対する合同協議での意見等については、100人委員会の皆さんには送付しておりますので、その意見の確認と、総合計画審議会の審議経過の報告。2点目は、パワーポイントを使って第二次素案の説明と討論で1時間強。3点目は、地区別、活動領域別に分かれて20分程度の協議。4点目は、各班から3分程度の発表、5点目がその総括となります。前回より時間を長めに取って、説明もしていきたいと思っております。

(6) 答申までのスケジュールについては、先ほどご説明いたしましたとおりですので、よろしく願いいたします。

曾根会長

ただいまの説明について、何かありますか。

午後の合同協議はかなり長時間ですが、よろしく願いいたします。

予定した議事は以上ですが、その他として何かありますか。

事務局

次回審議会は2月6日(土)午前10時から、市役所防災センターとなります。

1月30日(土)午前9時半から5時半まで、慶應大学湘南キャンパスにおいて、「藤沢のこれから、1日討論」を開催いたします。3000人の方にアンケートと出席要請をしたところ、1,200名以上から回答を得ております。さらに当日、出席希望者が300名を超えておりまして、特に20代、30代の女性たちの要望により保育ルームや学童ルームを設置するとともに、慶應大学へは市役所、湘南台、辻堂からバスのアクセスがあります。総合計画審議会委員の皆様には別途ご案内をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

曾根会長

DPと言っておりますけれども、来週、SFCで、300人以上の参加で行います。世界的に見てもかなりクオリティーの高い会になると思います。審議会委員はオブザーバーでご参加いただければと思います。

この点に関してご意見、ご質問がありますか。

特にないようですので、以上で、第6回総合計画審議会を終了いたします。

午後0時02分 閉会

新総合計画基本構想（第二次素案）（案）に係る意見提案等

合同協議（1月24日）

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
1	新総合計画を具現化するための財政的裏づけ(財源の計画)	・今後の財政計画の裏づけがない。 ・税収をどのくらい見込んで何をしたいというのが見えない。	・企業誘致を戦略的に ・新たな税収確保を考える必要 ・現状を広報で伝える。	財政計画については、基本計画と実施計画に含めることとしております。また、財政状況については、広報で定期的にお知らせをしております。 企業誘致に関連した事項は、基本構想においても、都市ビジョン・めざす方向性で記しており、基本計画・実施計画で事業を明らかにしていくこととなります。 なお、実施計画に掲げる事業は、行政の支出があるものだけでなく、生活実感に基づく暮らしやすさや豊かさを達成できるものも想定しておりますのでご理解ください。	
2	ボランティアの支援	・「地域経営会議」「地域力」というが、特定の人に集中するなど、不安・不公平感をとらえきれしていない。 ・「市民力」の定義がわかりにくい。	・あいまいでない、わかりやすい定義を ・広報	地域経営において、地域力は、地域の活動による地域づくりや藤沢づくりを指していますが、持続的に活動を進めていくためには、新しく参加を促すような仕組みや広報が必要であると考えており、地域で考え実行いただくことのひとつとしていただきたいと思っております。 市民力は、市民ひとりひとりの力であり、日常生活での工夫や地域づくりを意識した行動、新しく地域活動に参加いただくことなどを指しておりますので、ご理解ください。	
3	江の島を中心とした観光について	観光資源としての江の島をPRするということが、企業誘致などに比べて弱い。		観光については、地域経済の再生の重要な要素であると考えており、目指す方向性にも記載しておりますのでご理解ください。	
4	誰が書いたものなのか？訴えるものがない。	行政職員が書いているのでは？イメージが膨らまない。	審議会のメンバーが分担して書くべき。	基本構想については、総合計画銀議会の起草部会メンバーが中心となって作成したものですのでご理解ください。	p15 将来像
5	行政改革の項目を入れてほしい。	全国トップレベルの給料なのだから職員の質を問うべき。行政改革が最も重要であると考えるのであれば、記載すべき。	項目を入れるべき。	基本構想においては、基本理念の中で行政の効率性、生産性の向上について記載しておりますのでご理解ください。	p22

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
6	財政健全化をもっと強く書いてほしい。	・ロードマップを入れてほしい。 ・職員のスリム化、合理化を。		行政コストについては、従来より効率性を高めるよう努めておりますが、行政が担当すべき事業とサービスのあり方を見直す機会としても検討すべきであると考えております。 また、基本構想においては、基本理念の中に行政の効率性、生産性の向上について記載しておりますのでご理解ください。	p22
7	何が優先課題なのか分からない。	優先課題について整理したページがあっていいと思う。		課題については、現在「気づき」を収集し、100人委員会で分析を行うことにより明らかにするものとして進めております。 また、優先順位についても、100人委員会で実施していく重要度・満足度の市民アンケートによって決定することとしてご説明しているところですので、よろしくご理解ください。	
8	市民センターへの権限委譲に対する不安	コストupにつながらないか。 市民だけでやっていけるのか不安 行政である程度やってほしい。		基本構想においては、基本理念の中で行政の効率性、生産性の向上について記載しております。また、地域への予算と権限の移譲は一義的に市民センターに対するものであり、地域経営や地域まちづくりにおける計画策定、意思決定等において、市民センターと連携して進めていただくことを想定しておりますのでご理解ください。	
9	企業誘致などの「負」の部分を書いてほしい。	成長戦略の構想はいいが、それに伴う環境に対する悪影響を考えてほしい。	環境に対する「負」の面を盛り込んでほしい。	成長に対する環境負荷については考慮し、都市ビジョンとしての観光行動都市や未来の環境への投資という方向性を掲げておりますのでご理解ください。	
10	基本理念・戦略1に環境問題についても配慮してほしい。	広域連携については、茅ヶ崎や寒川との連携が必要となってくる。景観、水、空気は広域連携である。		基本理念については、それぞれが独立するものではなく、将来像を実現していくための根本にある考え方ですので、それぞれが関連するものとしてご理解ください。	p17

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
11	地球温暖化の防止について国の施策との関係を書いてほしい。	25%CO2削減について、国は打ち出している。		都市ビジョンにおいて環境行動都市を定めるとともに方向性を示しています。 具体的な目標については、基本計画、実施計画で決めていくものと考えておりますのでご理解ください。	
12	予算と優先順位について	基本計画以降では、予算に優先順位をつけ、いつまでに、誰がどれだけの予算で、どのようにやるか、ということ盛り込んでほしい。		基本計画、実施計画においては、事業の実施主体、スケジュールなどを明らかにしていきますが、施策や事業は、行政の支出があるものだけでなく、生活実感に基づく暮らしやすさや豊かさを達成できるものも想定しておりますのでご理解ください。	
13	本日の意見のまとめがほしい。	本日でできたいろいろな意見、回答を集約したものがほしい。		今回のご意見についても、地域経営戦略100人委員会において提供してまいりますのでご理解ください。	
14	若い世代の意見を引き出す場をつくる。	自治会の意見に若い世代(20代～30代)の意見が入っていない。若い世代が集まったり、意見を出す場をもてないか。		現在実施している「気づき」の収集やインタビューなどを通じて、地域や領域において様々な場面で、市民センター・公民館との連携の中で、主体的に設定いただけるものと考えておりますのでご理解ください。	
15	地域住民の参加する仕掛け(ものづくり・まちづくり)	地域住民やものづくり、まちづくりにかかわる人(メンバー)をもっと集める方法を模索する必要があるのではないか？		現在実施している「気づき」の収集やインタビューなどを通じて、地域や領域において様々な場面で、市民センター・公民館との連携の中で、主体的に設定いただけるものと考えておりますのでご理解ください。	
16	「私たちの政府」という表現について	基本的な構成は良い。ただし、「私たちの政府」ということについては、やはり抵抗感がある。地域経営会議についても同じ。「地域分権」「住民参加」について、別の言葉を探したらどうか。「私たちの政府」ではなく。		「私たちの政府」の理念等については、意見等をいただいた中で、説明や文章、構成を見直す中でご理解をいただけるものであると考えております。様々な意見を出し合い、議論することこそ「私たちの政府」の考え方であり、市民主体のまちづくりであると考えます。	

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
17	産業の場所づくりについて、もっと触れたほうが良い。	子供達が住み続けることにつながる産業の誘致(場所づくり)などに触れていない。IT先進都市としての強みに触れるべき。		産業の誘致については、地域経済の活性化等に関連して記載しておりますのでご理解ください。 場所づくり、IT産業の特化等については、基本計画での目標や実施計画において具現化を検討することとしておりますのでご理解ください。	
18	予防に関して触れていない。	病気や障害の予防が必要である。福祉や医療の視点からは「予防」という言葉を入れてほしい。予防による歳出への影響は大きいと思う。	健康藤沢づくり「予防の重要性」を強調する。	重要な視点であると認識しております。生涯の健康という面での記載を検討いたします。	p20, p21
19	地域・福祉をまとめるソーシャル・ワーキングが十分ではない。	実際、現場で働く「ソーシャル・ワーカー」という職種が機能していない。アジアでは、日本の福祉は失敗と見られている。お金を使わなくても、家族や地域の「きずな」を作っていく、ソーシャル・ワークはできると思う。	「現場で働くソーシャル・ワーキング」というキーワードを入れてほしい。	「私たちの政府」で進める、自助、共助、公助が、まちづくりの中で機能することで達成されるものと考えておりますのでご理解ください。	
20	若者を増やす政策を加えてほしい。	若者を増やせば、高齢化ではなくなる。外国人・国際化・湘南ブランド・若者の支援を。	「若者を増やす」をキーワードに入れてほしい。	政策については、基本計画や実施計画で位置づけるものですので、よろしくご理解ください。	
21	「足るを知る」を入れてほしい。	生活保護にはお金が適正なのか、障害者手帳が本当に必要なのか。サービスを充実させることで、家族の扶養という意味が薄れている。		「私たちの政府」で進める、自助、共助、公助が、まちづくりの中で機能することと公共サービスのあり方、公平性などを踏まえ、今後検討すべき事項であると考えておりますのでご理解ください。	
22	心のケア	心の問題について触れていないので、心の問題も取り上げてほしい。年間3万人以上が自殺する時代に、地域のきずなが必要である。		方向性の中で心身の健康や安全をめざすこととしておりますのでご理解ください。	

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
23	施設の有効利用	専用施設の建設が難しくても、他分野の施設等を借りるなどの仕組みづくり		公共資産の維持管理と有効活用については必要性を掲げており、今後の基本計画、実施計画の中で、仕組みを検討していくものと考えておりますのでご理解ください。	
24	具体的にやりたいことがあっても基本構想には載らない。	どう議論すれば良いか分からない。		基本構想は、皆さんからの意見や藤沢らしさをいただきながら、総合計画審議会で策定することとしております。具体的な実施事項については、実施計画で扱いますのでご理解ください。	
25	美術館等をつくるのが「心の豊かさ」につながっていく。	一分野のみではなく他分野との協調		公共資産の維持管理と有効活用については必要性を掲げており、今後の基本計画、実施計画の中で、仕組みを検討して参ります。 心の豊かさは生活実感につながる大変重要なものであると考えておりますが、施設建設のみでなく、様々な手法や担い手を含めて今後検討を進めるべきと考えておりますのでご理解ください。	
26	表現・表記に統一性がない。	全体的に一次素案より読みやすくなったが、表記に統一性がない。たとえば戦略1であったり、(1)であったり、番号がついていないなど。		表現については再度検討をいたしますが、付番の表記については、強調のために変更しているところもありますのでご理解ください。	p10, p16, p26
27	市民力・地域力・行政力とメンバーを線引きしなくて良いのでは。	時には市民であり、地域であることもある。線引きしなくて良いのでは。		同一の方が重複することは理解しておりますが、担い手としての組織を中心に捉え、市民・地域・行政をいう分担を想定しておりますのでご理解ください。	p7, p8
28	地域経営実施計画はどのように策定するのか。	誰がどのようにまとめるのか。表記が分かりづらい。		策定スケジュール等について、100人委員会の中で確認をしながら決定していきたいと考えております。	p5

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
29	この構想・計画がどのように活かされていくか。	すべてがはじめてのものなので、不安もある。		ご意見のとおり、新しい仕組み、新しい取り組みですので不安やご心配をおかけしていると思いますが、今後の取り組みで実感をご理解をいただけるものと考えております。	
30		全体的にまとまって読みやすくなっている。	まとめるのは大変ですが、関係資料はもう少し早く送付していただきたい。	ありがとうございます。できるだけ早い時期にご連絡や送付をするよう努めておりますが、更に努力しご迷惑のかからないように進めたいと考えておりますのでご理解ください。	
31		100人委員会の意見がどこに反映しているのか分からない。	分かるような方策をとってほしい。ないならないで書いてほしい。	100人委員会での気づきは、めざす方向性の要素要素として反映しています。 総合計画審議会では、その方向性をもとに藤沢の姿(都市ビジョン)を策定し、めざす方向性の実現の道具となる基本理念、そして全体を総括する将来像を策定しましたのでご理解ください。	
32		市民へのPR不足があると思う。このことについて知っている市民は一部である。	もっとPRをしていってください。	市民一般の方には、基本計画以降での「気づき」の調査などで実感をもって関心を寄せていただければと考えておりますし、現在の活動は、広報、ケーブルテレビ、FMラジオでも紹介しておりますが、委員の皆さんからも、PRをいただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。	
33	コミュニティの自律化	自律してと記載があるが、コミュニティは崩壊しているのが現状です。ごみの戸別収集等も近所つきあいを希薄化する要因のひとつであり、施策自体が育成、自律をサポートするようになっていません。コミュニティの自律化をサポートする施策を総合的に実施しなければ、地域経営につながる主体とはなり得ません。		ごみの収集の際の井戸端会議がなくなったという声をお聞きしたことはありますが、例えば、散歩をしながらごみが出ていないお宅を気にして声をかけるなど、きっかけや出会いを大切にしながらネットワーク化をするなどの仕組みは考えられると思います。この仕組みについては、行政も含め地域や住宅環境に応じて考え、実行するものであると考えておりますのでご理解ください。	p11

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
34	コミュニティの自律化	自律化をサポートする施策を、基本構想はともかく計画には是非盛り込んでほしい。地域のコミュニティは、互助の精神をそれぞれの市民が持ち、自分の生活に合わせて発揮するものでしょう。そのための育成も必要です。藤沢市の宝は「人」であることは間違いのないことですが、自己満足傾向にある様に、結果として市民がボランティア市民になるというビジョンを持ってほしいと思います。既に動いているボランティア市民はおりますが、その方々をまとめて動く主体にするという考え方は、コミュニティを壊してしまうこともあります。		市民力・地域力を発揮いただくためには、自己実現、充実感というものも意識する必要があると考えております。既存のコミュニティの再生か再構築かという選択を含め、コミュニティのあり方や仕組みについては、基本計画での皆さんの議論により施策を明らかにすべきものと考えておりますのでご理解ください。	p11
35		市民を市民ボランティアとわけるのはおかしい。		市民は自分自身の力で生活課題の解決をはかる主体であり、市民ボランティアは、ボランティアという活動を通じて他者の生活課題の解決を支援する主体としておりますのでご理解ください。	p6
36		<ul style="list-style-type: none"> ・全然わくわく・どきどきしない。 ・パッと見は大体網羅されているのではないか。 ・目標は高いところに置きたい。 ・担保と保障をどこで見るか。 理念は良いが実施計画と一致させてほしい。		目標設定、構想と計画の財政的担保や整合性確保は、今後の基本計画、実施計画の策定において重要なことであると考えております。	全体
37		<ul style="list-style-type: none"> ・IVの中身について、高齢者に関する項目がほしい。 ・IVの中身について、3と4のテーマはすぐにでも着手したい。 ・IVの中身について、4の冒頭はいらぬ。すべての市民でよい。 		基本構想では、特定の対象についての施策を立てず、すべての市民や主体が協働して将来像に進むための理念やビジョン、方向性を示しておりますのでご理解ください。	2章
38		<ul style="list-style-type: none"> ・ここでの情報は地域経営会議のための材料である。 ・表現がどのようにも取れるものは、良いように理解していいものなのか。 		地域経営では地域経営会議の運営と主体性が重要となると考えており、そのためにも100人委員会で手法や情報を共有いただくことが大切であると考えておりますのでご理解ください。また、領域の専門性については、今後の基本計画の中で更に発揮されるものと考えております。	

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
39	住民が参画するための仕掛け、意見を吸い上げる仕組みづくりを提言(一般の方の参画の仕方が不透明)	マニフェストで住民経営と謳っている。いかに住民参加を推進するか、そのために総合計画の中に親しみのもてる表現を使うかがポイント。意見の吸い上げの方法、仕組みづくりを提言したい。		現在「気づき」の収集を行っていただいておりますが、アンケート、インタビューなど意見の収集方法については、100人委員会においても実施いただいております。また、市民電子会議室も開設しておりますので、ご利用ください。 今後更に、藤沢や地区の特性を活かした仕組みをご提言いただければと考えておりますので、よろしくお願いたします。	
40		地域住民、地域市民の言葉が混在。前向きに参加する意思を持つ人、持たない人を前提としているのか違和感がある。分かりやすい表現に。		注釈のとおり、地域市民はまちづくりに参画する市民を指し、地域住民とは区別しております。市民力・地域力を構成する方々として用いているものですのでご理解ください。	
41		・地域経営会議ばかりがクローズアップされて市民とどう向き合っていくのか何も決まっていない。 ・市民からは何も委任されていないはず。一般の市民から意見を受ける仕組みを。		討論型世論調査を実施するなど、市民との取り組みについても実施してまいります。また各地区においても地域経営会議が地区ごとの取り組みの中で市民の声を聞きながら進めていくものと考えておりますのでご理解ください。	
42		この会議の運営、総合計画にある市民参画etc共通理解、共通認識が必ずしも同じベースに立っていない。	「くらまち」の仕組みも2~3年かかっている。もう少しゆとりを持って進めなくてはいけないと思う。 今回は結果を急ぎすぎていると思う。参加し主体となるのであれば、市民のペースにもあわせてほしい。	今後も地域経営戦略100人委員会の中で、情報と認識を共通にしていきたいと考えておりますのでご理解ください。	
43	地域経営会議に任せる要素が拡大しすぎている。	すぐに地域経営会議に任せるとの内容がでてくるが、やはり前段としてある程度行政のほうでやるべき。行政の責任というもの放棄してしまっているのではないか。		地域でできることは地域で考え地域で実行することを本構想の基本的な考え方としていますが、行政については、行政が担うべき役割分担について、責任をもって進めてまいりたいと考えておりますのでご理解ください。	

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
44	力を集めるという内容ばかり。個を活かすのはどうなっているのか。「人づくり」が大事	計画には、地域力・市民力と力を合わせるばかり。中央集権的に見える。もう少しゆとりを持って地域住民が参画できるものでなくては！ また、人づくりを忘れている。人があってはじめてよいものができるはず。		人は地域や社会が育てる面も大きいと思います。従って地域づくりの活動が市民力を育て、相乗効果を発揮できるものと考えます。 地域での市民参画の工夫が一層なされ、地域経営会議をはじめとする地域が主役となるまちづくりを想定しておりますのでご理解ください。	
45	3章を最初にすべき	なぜ新たな計画の策定が必要かを最初に。そしてもっと加えるべき。		現状の概要を把握いただいた上で、新しい考え方や理念をご理解いただき、更に背景や数値について確認いただくこととしております。	p25
46	わかりやすくなった。	基本構想だから方向を示すことで良い。		今後の基本計画、実施計画の策定において、具体化、具現化を図ることになりますので、よろしく願いいたします。	
47	100人委員会の熱意が反映された。	100人委員会の意見の多さを見ても、我々の熱意を評価したい。		ありがとうございます。皆さんのご尽力により、より良いものになったと思います。今後ともよろしく願いいたします。	
48	市民の人が興味を持てる文書化	市民の関心をひくような書き方を工夫してほしい。		皆さんからのご意見をもとに修正をいたしました。今後概要版以外にも分かりやすいものや考え方を示した関心を引くようなものの作成を検討してまいりますのでご理解ください。	
49	財政の厳しさをPRしたほうが良い。	豊かな生活環境が先に書かれており、財政が厳しいと後からでてる。 甘い言葉ではなく、もっと厳しさをPRすべき。		厳しいだけでなく夢と希望があふれる未来に向かっての計画にしたいと考えておりますのでご理解ください。	
50	財政の見通しと計画を示す。	基本計画の中でも良いが、きちんと示すべき。		基本計画・実施計画の中で財政ビジョンと財政計画を定め、活動を担保していくこととしておりますのでご理解ください。	

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
51	単年度予算ではなく複数年度予算の考え方ができるように	市民がつくる計画である。単年度で予算を使い切る発想から、工夫により翌年お活動に回せる発想もほしい。		行政の予算について効率性や妥当性を確保することはもとより、行政と地域の工夫で新たな財源やパートナーを見つけることなども必要であると考えておりますのでご理解ください。	
52	市民へのアピールが不足している。	市民の計画であることが強調されている。もっとPRすべき。	広報だけではなくもっといろいろな媒体を使って。毎回の広報に進捗状況を。	現在もホームページの充実等に努めておりますが、今後も計画の周知はもとより、地域経営、市民主体のまちづくり活動のPRを進めてまいりますのでご理解ください。 また、地域経営会議でもPRをいただければ幸いです。	
53	地域住民の声をどのように聞くのか。	「地域住民」「地域市民」を区別している中で、サイレント・マジョリティの声を聞くことをどう考えているか。置き去りになっていないか。	100人委員会からの意見に同様なものがあつたが、回答案にあることをきちんと反映させてほしい。	1月30日には、全国の市町村で初の無作為抽出した市民による討論型世論調査を開催しました。また、「気づき」の収集として、皆さんに多くの市民の声を集めていただいておりますのでご理解ください。	
54	市民力から地域力への意見とは？	1日討論の意見を地域経営会議や100人委員会が聞き入れないといけないという意味か？		討論型世論調査の意見は、市民一般の方からの情報と思慮に基づく意見として参考にさせていただければと思います。 また、地区のアンケート等でも広く意見を聞いてマーケティングをすること、意思決定をすることを進めていただきたいと考えておりますのでご理解ください。	
55	産業部会の必要性	市域全体のまちづくり計画に大きくかかわるものである。 また、地域経営会議に重きがおかれ、領域部門の取り組んでいることが反映されていない。 分野別に組織化をしたり、人数をもっと集めたほうが良いのではないか。		産業については、第一次産業から6次産業まで幅広く、委員の専門領域からも総合的にご議論をいただくことが難しいことは承知しております。そのため、市としても関係各課の協力体制を整えたとともに、委員さんの活動をフォローアップできるよう努めております。 広く意見を収集するための収集先や収集方法等を含め、委員さんでご議論いただきながら方向性を検討したいと考えておりますのでご理解ください。	
56	産業各分野に分類	専門の方に入っていていただいてもっと議論をしたい。		作業部会や学習会など、委員の皆さんでより良い進め方をご検討いただきたいと考えておりますのでご理解ください。	

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
57	基本構想の中に産業がない。			都市ビジョン, 目指す方向性の中に明示しておりますのでご理解ください。	
58	善行雑学大学について	善行雑学大学について, 内容が実際の活動目的, あり方とは異なる。とらえ方が違う。地域活性化活動ではなく自習学習である。	わいわい善行にすれば内容は異なる。事前に内容の確認を各地域にしていきたい。	申し訳ございません。より具体的に表現をすることを目的に素案に記載をさせていただきました。各地区の活動を含め, 記載方法について再考いたしますのでご理解ください。	
59	新しい公共づくりについて	行政・市民協働でハード面, ソフト面をつくり上げていく上で, 区切りはどこになるのか。市民への負担はどのくらいなのか。実施計画の中で出てくるものなのか。		市民・地域・行政の役割分担や担い手は, 基本計画・実施計画の中で検討してまいります。市民負担については, 受益者負担やボランティア活動など, その担う役割やサービスを享受する側か提供する側かによっても異なりますのでご理解ください。	
60	第二次素案について	・前回と比べてわかりやすくなった。 ・具体的に書かれていない。(財政・人口)		ありがとうございます。現状については3章に記載をしておりますのでご理解ください。	
61	湘南C-Xについて	・地域力を活かす。 ・何らかのモデル都市的な整備を。 ・住んでいる人が良いと思えるものを(地域のニーズに沿った整備を行う。)		湘南C-Xについては, 今までも市民の皆さんとまちづくりを進めてきたものであると考えております。今後ハード面の整備だけでなく, 新しい市民や利用者を含めたソフト面での充実に向けて, 地域力を発揮していきたいと考えておりますのでご理解ください。	
62	地域経営について	・もっと住民に要望を言って, 行政と一緒に痛みを分かち合うことが必要 ・各センター長・公民官庁への権限が強くなることへの弊害が心配	・各地区がバラバラすぎるのも困る。市の構想に沿った横の連携が必要	地区の個性を活かしながら, 地区間で連携を図りつつ, 全市で対応すべきことは全市で行っていくことが必要であると考えております。また, 将来像に向かって, 重複やズレのないよう計画策定を進めることも重要であると考えております。市民センター長・公民館長の権限については, 行政サービスの迅速性や地域ニーズにあった対応のためのものですのでご理解ください。	

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
63		藤沢を他市町村に言い換えても読み取れる。一般的な表現ではなく、具体的に農業という「長後の～」など地域を限定して表現したほうが良いのでは。		各地区の特色はご提供いただきましたが、地区の具体的な目指す目標については基本計画において、気づきの収集をもとに分析をいただいで進めてまいりますのでご理解ください。	全般
64		都市ビジョンに長寿に関する記載がない。また目指す方向性での子どもと高齢者の記載がバラバラである。		めざす方向性の中で一生安心して生き生きと暮らすこととしておりますのでご理解ください。	
65		都市ビジョンは藤沢ビジョンとしたほうがわかりやすく、親しみやすい。	「藤沢ビジョン」にしてほしい。	「藤沢づくり」という造語を用いておりますので、都市ビジョンについては副題の表現方法を検討いたします。	
66		右肩上がりではない社会。できるだけ地域の宝を伸ばすような案には。	各論になったとき、地区ごとにわかりやすくなるよう期待します。	地域の宝を伸ばすことは非常に大切なことと考えております。将来に向かっての予測や魅力のPRの方法、地区でのニーズがあるかなどについて、基本計画・実施計画で検討をすすめていただきますのでよろしく願います。	
67		2020の反省、地方政府の説明があったことは良かったが、キーワードは太字にしてほしい。		ありがとうございます。今後、概要版などの発行の際に検討させていただきますのでご理解ください。	
68		もう少し、図やグラフがあったほうが良いのでは。		今後、製本や概要版などの発行の際に検討させていただきますのでご理解ください。	

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
69		地域市民という言葉は藤沢市外でも通用する言葉なのか。総計審の整理なのだとすれば、市民ではなく住民でありたい。	「地域」「地区」「市民」「地域市民」に注釈をつけてほしい。	地域市民はまちづくりに参画する市民を指し、地域住民とは区別しております。市民力・地域力を構成する人の構成のために用いているものですのでご理解ください。 また、「地区」は各市民センター・公民館の範囲を指し、「地域」はコミュニティの範囲としてもう少し広いエリアを想定しております。併せてご理解ください。	
70	いままでの総合計画を否定すべきでない。	これまで先輩方がやってきたことを否定すべきでない。		今後の総合計画のあり方をより共有できるものという趣旨でしたが、記載を修正いたします。	
71	地域市民の声を無償の地域の市民が本当に聞けるのか。	1地区で何万人も住民がいる。地区の中でもエゴがある。無償の市民がまちづくりを纏め上げられるわけがない。		地域で考え、地域で実行することは、市民センター・公民館と地域経営会議が協働し、地域力・行政力を発揮して計画策定をいただきたいと考えておりますのでご理解ください。	
72	地域主体だけで地域まちづくりができるのか	市職員ですらできないことを地域経営会議ができるのか。		地域に住み、地域を愛する皆さんであるからこそ、広く地域の市民の声を聞き、考え、実行することができると考えておりますのでご理解ください。	
73	市議会議員が無償でまずやってみるべき。	市議が無償で何年かやってみて、できるなら無償の地域住民による地域経営会議でもできるかも知れない。		市議会議員は地区から選出されるのではなく公選により市域から選出されておりますので、地域の専門家である皆さんの主体的な活動をお願いいたします。	
74		地域経営会議でできることと本庁に伺いを上げなければならないことの範囲をはっきりしてほしい。		基本計画において、気づきの分析や重要度満足度のアンケートなどにより全市で何を扱うか、誰が担うかを検討していきますのでご理解ください。	

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
75		全体の順位とその地域の順位が異なる場合はどのようになるのか。(例:市民センターの改築)		全市で扱うべきことと地区で扱うべきことは異なります。例えば市民センターの改築は地区の課題ではありますが、地区内の施設の有効活用や施設利用率など様々な要素を検討しながら、地区内や行政との意見交換を踏まえて進めていくこととなりますのでご理解ください。	
76		まちづくり計画(案)はいつまでに提出すればよいのか。		2010年の6月下旬～7月上旬を想定しております。	
77	A4判2枚程度のダイジェスト版をつくってもらいたい。	この状態の基本構想では、長すぎて読む気がしない。ダイジェスト版をつくって、詳しい内容は、今のような基本構想を見るような作りにしたほうが良い。		ダイジェスト版については作成いたします。更に考え方や理念などをご理解いただけるようなものを検討してまいりますのでご理解ください。	
78	言葉について	・途中で英語が出てくるのが不自然 ・注釈はその言葉が出たときにしないと、後になってされても意味がない(コミュニティ) ・言葉の意味がわからないものがまだ多い。	注釈をつけないと伝わらない言葉は使わないほうが良い。	言葉については、修飾や語呂、国際的なキーワード等を念頭にしておりますのでご理解ください。	p4, p11, p13, p18,
79	自画自賛の言葉が多い	進化した市民自治等、藤沢を自画自賛した言葉が全体的に多すぎる。		藤沢の市民自治の歴史と今は、皆さんや多くの先輩の英知であり、全国的にも素晴らしいを考えておりますのでご理解ください。	
80	全体的に見てわざわざ難しく書いている気がする。	子どもにもわかるように書いているのか疑問である。2030年の構想なのだから、その時大人になって藤沢に住み、働くであろう子どもたちが理解できるものにならなければならないと思う。	変に言葉を修飾しない。ダイジェスト版をつくる。	ダイジェスト版については作成いたします。更に考え方や理念などをご理解いただけるようなものを検討してまいりますのでご理解ください。	

No.	件名	内容	改善提案	回答(事務局案)	出展
81	私たちの政府宣言がわかりにくい。	いくら読んでもやはりわからない。地域のことは地域でやれといわれているように受け取れる。また、将来像を冒頭で囲ってある意味がわからない。「私たちの政府」は必要ないように思う。変な修飾語が多すぎると思う。		「私たちの政府」の政府の概念に違和感をお持ちかと思いますが、地域で考えて、市民、地域団体や行政がそれぞれ担い手となって、暮らしやすいまちをつくることにほかなりませんのでご理解ください。	
82		地区毎の実施計画(13地区別まちづくり実施計画)を策定することだが、環境・農業にしても御所見の地域性から全てをエリアで区切る必要はないのではないか。	13地区別まちづくり実施計画を策定するのは別に、同じような課題を抱えているのであれば、もう少し広い範囲で計画を策定していく必要がある。	地区別の実施計画のほかに、市域全体での実施計画も策定いたします。また、地区間の連携を深め、共通する課題を協働して解決していくということも想定しておりますのでご理解ください。	
83		河川・道路等、御所見地区は他市と接しているため、広域連携が必要となってくる。計画を御所見地区だけで策定していくことはできるが、実施していくのは困難ではないか。		行政が分担する部分の広域連携については積極的に推進し、市民、地域、民間企業等に波及するよう努めてまいりますのでご理解ください。また、地域経営会議等でも連携を推進いただくようお願いいたします。	
84		土地利用等の規制緩和についても地域に委譲されるのか。		地域でニーズのある権限については、できる限り地域で対応できるよう検討をしておりますが、手続上、公聴会や説明会の実施など、法令の定めにより行政が行わなければならないものについては地域に委譲できないこともありますのでご理解ください。	

新総合計画基本構想（第二次素案）に係る意見提案等

100人委員会委員の意見

No.	件名	内容	改善提案
1	環境問題と広域(河川・大気・道路等)問題	具体的に記述していない。	どこが検討するのか。
2		少子高齢化対策が漠然としている。	
3	第二次素案について	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にまとまっている。 ・読みやすくなっている。 ・まとめるのは大変でしょうが、関係資料の到着をもう少し早くしてほしい。 ・100人委員会の意見がどこに出ているのか分からない。見つからない。 	
4	イラストについて	第二次素案に書かれている図の大きさ、その中の文字の大きさではとても見にくいと思います。	地区名はもっと大きいほうが見やすいと思います。
5	基本構想の書きぶりについて	1) p3「はじめに」に書き込むメッセージを鮮明に打ち出したい。財政難、施設倒壊の恐れなどは「はじめに」に書き込むことだろうか。この背景から、市民はどういう心構えになれば良いかを大胆に書いたらどうか。	
6	基本構想の書きぶりについて	2) p34基本条件3で老朽施設の改築を従来と同規模で試算しているが、これでは財政が持たないのだから考え方を変える方向を強調したらどうか。	
7	財政	地域経営会議を重視する内容が始まり、委員としてがんばっているが、全くのボランティアとして市民力、地域力を使うなら、市の人件費は減るはずで、その見通しが示されていない。さっぱり、わかりません。日本でも他に先駆けた形の地域経営会議というのなら、財政的にもこうなったよと他市に胸を張って言えるようにしてほしい。(市職員の給料をさげるとか、リストラしろと言っているのではない。)	
8	文教地区・地域・都市という理念・概念	今まで藤沢市は文教地区・都市という色合いが強かったと感じています。この表現が総合計画の基本構想の中に見あたらないのは、非常に寂しいと思います。	やはり「明日を担う「藤沢のこどもたち」育む環境づくり」「藤沢ライフスタイルと湘南カルチャーを育む」に含まれるでは弱すぎると思います。やはり大人の問題意識としても、どこかに文教地域・地区・都市という言葉がほしいと思います。
9		この新総合計画に、一般市民はどのように関わっていけばよいか。市政や地域に参加していない人が多い中、参加していない人、参加したくてもできない人は、この総合計画とどのように関わって生活していけば良いのでしょうか。	
10		総合計画が市民一人ひとりの上に成り立っていると考えるのであれば、共有化できる・親しみやすい総合計画にしていきたい。この計画では、興味のある人にしか読まれず、共有化されない。	

No.	件名	内容	改善提案
11		すべての市民が「まちづくり」にどのように参加していくか。20年先に向けて「やさしい、思いやりのある」まちづくりが必要ではないか。また、管理社会や競争社会に生きていかなければいけない中、生活をするライフタウンや身のまわり、家庭やまちには「やすらぎ」が感じられるようにしていきたい。	藤沢づくりに「やさしい、おもいやりのある、やすらぎのある まちづくり」を提唱したい。また、本当に愛着の持てるまちにしていきたい。
12		藤沢づくりには、「市民一人ひとりが個性を活かし、できることに参加して貰う」ことが必要であり、「やさしい 思いやりのある人」「マナーが守れる人」「良い仕組みや器を使える人」「これらを継承していける人」を育てることが大切である。	人を育むまちづくりが必要であり、人間力を育て、思いやりを育てる方向性を加える。
13		この計画では、個人より市民力・地域力が前面に出ている。市民一人ひとりがどのような理念や行動指針で生活し、参加、行動していくのかがない。	市民憲章を見直し、活かされた市民憲章と総合計画の融合を図るべき。
14	市民力・地域力とは	仕事でない限り、自分の都合が優先であって、必ず100人委員会に出席できるものではない。 そういう集団を真に市民力と考えてよいのか。 責任ある決断はできない。あくまでも声を聞くための集団でしかない。市民は無償の中で、こういう会を開くための景気は無駄に思う。 市職員、市議、審議会議員は、どこまでボランティアで動いているのか？説得力がない。(どちらにせよお互い犠牲を強いられているのは決してよくない。)	市民力、私たちの政府について、市民を巻き込んでの議論が必要(そうでないと、先々メンバーはいなくなり、特定の人のものになり破綻する。)
15	財政状況の表現について	収入・支出の予測(将来の財政予測値)について、表現がない。ただ、財政が逼迫するというだけである。	5年後、10年後の見込みを追加記載したほうが良い。
16		次世代が理解できるような「将来像」を明示願います。 これなしに基本計画の策定は難しいと思います。	
17	素案への感想とお願い	第二次素案(案)のp20~21の方向性のページを例とします。 この文章の中の「藤沢」を他の自治体名に取り替えてもそのまま使えます。一般的な常識を並べて2ページはもったいないので、藤沢独自のカラーを打ち出し、市民へのアピールを図ってください。	独自の私たちの政府、あるいは地域経営会議などをツールとして、藤沢の方向性との結びつきを解説する。
18	少子高齢化対策について	少子高齢化は現実の問題として将来非常に重要な課題であると思う。基本構想にはある程度の具体性を盛り込んだものにしてほしい。	
19	英語使用に賛成します。	グループ協議の発表の中で「英語」を使用しないようにとの意見がりましたが、私は英語使用に賛成します。 新総合計画を読まれている方には理解されます。硬い文章の中に少し英語が出てくるとソフトに感じられるし。インパクトもあります。	
20	湘南発夕張	市民力といっても限界があります。ボランティアをしたらポイントがもらえるような仕組みがあったらいいと思います。若い人のボランティアのお誘いがしやすくなります。	

No.	件名	内容	改善提案
21	基本理念？	「行政サービスのスケールメリットを活用し」という文面が全く理解できない。 その他コンプライアンス改革、インターナル・コントロール改革については()内を書いてあるが、素直に日本語で表現したらどうか。	
22	地域経営実施計画	各地区が実施計画策定をと第二次素案にあるが、この計画には支出計画のみが記載されと思われ、収入増に関わるものは極めて少ないのではと懸念される。10年後の予測に寄与する収入増はほとんどないのではないか。	
23		第一次素案に比しかなり読みやすくなっている。この素案の内容を一般市民に分かりやすい言葉づかいで知らせ、我々と同じような将来への心配を持ってもらうように勤める必要があると思います。	10年後以降の市財政は「湘南発タ張市」のようなショッキングな見出しで、広報なり、別刷りで配布するなどはいかがかと考えます。 パソコンでメール配信することも可能かと思えます。
24	100人委員会の運営方法について	希望者のみでよいので、電子メールを活用し、費用や環境負荷の削減をはかるべきと思う。	
25	新たな「藤沢づくり」の課題	2回ほど領域別に自己紹介、興味関心があることなどを離しただけで、これから深く話し合っていくという段階で、もう文章ができていないのは納得いかない。	素案の段階なので、深掘り、話し合った結果を載せていただきたい。
26	市域内連携で取り組める課題解決への記述が必要ではないか。	p18の都市ビジョンの3 さらなる可能性を追求する創造発信都市の頭にある、藤沢スタイルの創出・発信や、p21の「藤沢づくりを支える…地域経済の活力再生」につながるための基本的考え方も表記されていることが重要であり、またそれが新しい発想や人材活性、市域内活性にもつながり、夢の部分ともなり得ると思われるとともに、p18, 21につながると思います。 その阻害要因ともなりかねない、これから固まっていく地域まちづくり計画案をたてに、海、川、生産地など環境分野における保全と活用の対立事由をつくらないことにもなります。	p14の5行目と6行目の間に「また、市域内の課題についても、地区間交流、課題の共有などを図り、市域内連携で解決を図ります。

庁内新総合計画検討会議

No.	区分	内容	出展
1	意見	新しい基本構想は、藤沢市の新たなvision～未来像～を示した藤沢市にとっては目指すべき高邁な理想ともいえる位置付けと考えるべきではないか。そういう点から考えると「はじめに」の中（下から2段落目）で、「いままでの総合計画は…ありませんでした。」とこれまでの計画を否定する表現は、せっかくの新しいこの計画そのものまで卑小化してしまう表現ではないか。これまでの反省は必要ですが、今までのことをあげつらうより、この計画ではこうしていくんだという高い見識からの表現が欲しい。	はじめに
2	意見	①P3の10行目「倒壊の危機に瀕する状況」という表現は、市民に与える不安が大きくなるのではないか。	はじめに
3	意見	「はじめに」高度成長期を通じて建設されてきた公共施設や都市基盤施設が老朽化し、機能の低下や倒壊の危機に瀕する状況が生じています。 ※高度成長期を「通じて」・・・意味が通じません。P26では、「期」としています。 ※「倒壊の危機に瀕する状況」は何をさして「生じています」なのでしょう。	はじめに
4	意見	「はじめに」一方、藤沢には市民力・地域力による生活実感に基づく主体的なまちづくりが活発に展開され、まちづくりを支える大きな力となっています。 変化に対応し、藤沢の力を生かして豊かなくらしを実現するためには、まちづくりの仕組みや発想を根本から変え、自助・共助・公助とそれらの連携によって、市民生活に直結する生活者の実感をもとにした、市民のための市民主体のまちづくりが必要となってきます。 ※「生活実感に基づく主体的なまちづくりが活発に展開され、まちづくりを支える大きな力となっています。」とし、「生活者の実感をもとにした、市民のための市民主体のまちづくりが必要となってきます。」「展開されている」ことが、更に「必要となった」のでしたらいいのですが、同じことを繰り返していません。まとめるといいのでは。	はじめに
5	意見	「はじめに」そのため、新しい総合計画は、市民力・地域力・行政力の3つの力を結集して創り上げ、藤沢にかかわるすべての人が共有できるものにしていきたいと考えています。 ※ だれが「していきたい」のか。一人称の主語が不明確	はじめに
6	意見	1 p3 いままでの総合計画に対しての否定的な評価は、入れない方がよい。p25の策定の必要性の基本コンセプトを付け加えたほうがよい	はじめに
7	意見	○「私たち」とは誰を指しているのでしょうか？ “行政以外の市民” or “行政を含む官民一体” どちらなのでしょう？ → 3頁表題「私たちがめざす新しい総合計画」の「私たち」は、“官民一体”と捉えますが、特に同頁、下から2つめの文章の「私たち」は、“行政以外の市民”と読めます。	はじめに
8	意見	○“市民力”や“地域力”など、今までにない表現が急に出てくると、今までのものと全く違うもののように感じられます。 → 今までの経過から、まちづくりを支える力が蓄積され（等）、市民力が高まってきたことから“市民力”（等）と表現した方がよいのではないのでしょうか。	はじめに
9	意見	なぜ新総合計画を策定するのか判りやすくなった。前回までの暗いイメージを与える部分がだいぶよくなった。	はじめに
10	意見	新総合計画の位置付けについて（P4）前段（P3）で、「藤沢づくり」、「地域づくり」という言葉の意味合いが詳しく説明されていて非常に分かりやすくて良いが、新総合計画の位置付けに入っすぐに「地域経営」という表現が表れている。一般市民には理解しにくいのでは。	策定プロセス
11	意見	「地域市民」と「地域住民」の使い分けが必要なのか。	策定プロセス
12	意見	100人委員会でも指摘されていましたが、P6に「市民・市民ボランティア…」と表現されていますが、ボランティアを市民と区別して表現する事は違和感があります（分ける意味がわからない）。こういう違和感のある表現が続くと、全体として言葉の定義がしっかりされていないイメージを残します。	策定プロセス
13	意見	市民力・地域力・行政力の並びの統一性が図られて良かったと思いますが、P7「計画策定のプロセス」において、（1）地域力、（2）市民力の並びは逆であるべきではないか。	策定プロセス
14	意見	番外）地域経営会議の責務が表現上で重すぎないか心配です。	策定プロセス
15	意見	都市マスタープランとの関連性について簡単に触れてほしい。	策定プロセス
16	意見	Ⅱ-4 新総合計画と部門別計画・・・P6 （1）「環境基本計画などの計画は、この新総合計画の基本構想に示す理念や方向性に即し、また、このプロセスを踏まえて見直しや策定を行います。」とあるが、平成22年度の1年間をかけて改定作業を行う環境基本計画他各種計画について、このプロセスが指すものを具体的に標記してもらえるとわかりやすいと思う。 （どのように進めたら良いのか迷っているところがある。）	策定プロセス
17	意見	Ⅱ. 新総合計画の枠組と策定プロセス ※「枠組」の意味、文書上のどこで説明しているのか。	策定プロセス

No.	区分	内容	出展
18	意見	<p>II-2. 計画のフレームと構成 ※フレームと構成は何をさすのか。違いは。</p> <p>(1) 新総合計画では、地域経営を進めていくための仕組みとプロセスを明らかにした上で、「生活者の実感」で市民、地域と行政が協働して創り上げる藤沢の将来像を示します。さらに「藤沢づくり」を進めていくための理念・目標・施策の方向を明らかにし、あわせて具体的に取り組むシナリオを示します。 ※プロセスは、「手法」「手順」「過程」とすると ※仕組みは何をさすのか。策定方法（三層構造等）は手法と同じでは</p>	策定プロセス
19	意見	<p>基本構想：～ 未来へ向けた構想～ ア 藤沢の20年後（2030年（平成42年））までの姿を示すビジョンとします。 ※「ビジョン」は、3つの都市ビジョンとすると イ 基本構想は、地域経営を実現していくための将来像、理念、都市ビジョン、方向性及び仕組みとプロセスなどを示すとともに、「藤沢づくり」や「地域づくり」として具体的に取り組むべきことを明らかにする「基本計画」「実施計画」の方向性を示したものです。 ※「都市ビジョン」とは、将来像や理念とは異なるものですか、並列標記していますが</p>	策定プロセス
20	意見	<p>基本計画： ウ 各地区の地域経営会議と市民センター・公民館は、地域経営戦略100人委員会での検討内容を踏まえ、「地域市民」の声を聞きながら、地域まちづくり計画（案）を策定します。 ※市民センター・公民館とくに公民館の分掌事務（市長の権限の一部を担う規則等との整合性は大丈夫ですか。</p>	策定プロセス
21	意見	<p>基本計画： エ 地域まちづくり計画（案）は、生活課題に基づく課題整理と分析による、地域まちづくりの方向性を示す計画とします。 ※「基づく」ですか「おける」・「生活課題の整理と分析」とかではないですか。</p>	策定プロセス
22	意見	<p>○基本構想の内容や新総合計画をどのように作りたいのか等は分かりやすくなっていると思うが、より市民に分かりやすくするため、総合計画そのものがどういう計画なのかをもっと具体的に記した方がよいと思う。 例えば、市の諸計画等の最上位に位置付けられる計画であることや策定が地方自治法で義務付けられていることなどが記してあると整理しやすいのでは。</p>	策定プロセス
23	意見	<p>2 p 5 地域市民の定義は掲載すると、誤解を招くので、掲載しないか、一般の市民から意見を聴くことや市民の参加をどのようにするかを明らかにするべきである。</p>	策定プロセス
24	意見	<p>3 p 7 地域力、市民力、行政力は総合計画を策定するためだけのものではないので、「地域力は・・・されます」などの表記は誤解を生じるので、「・・・のような地域力を活かして、・・・策定する」などの表記としたほうがよい。</p>	策定プロセス
25	意見	<p>P 5 基本計画と実施計画の項目が連動すると見やすい。（表記について） 例 基本計画 ア が 実施計画 ア・イ 基本計画 ア が 実施計画 ア-1 ア-2</p>	策定プロセス
26	意見	<p>P 7 13地区ごとの「地域まちづくり計画」（案）を策定とあるが、地域がまたがる問題や計画策定など、地区間連携の考え方について明確にされていない。</p>	策定プロセス
27	意見	<p>○「実施計画」は、「行政主体のもの」と「地域主体のもの」がそれぞれできるフローになっていますが、その上位計画となる「基本計画」においても、同じように「行政主体のもの」と「地域主体のもの」ができるのでしょうか？ 4頁のフローでは、「地域まちづくり計画」とありますが、行政は、「財政計画」及び「施策の体系・進捗管理」となっており、5頁の文章にある「藤沢づくり」である「まちづくり計画」が抜けており、明示した方がよいのではないのでしょうか？</p>	策定プロセス
28	意見	<p>○7頁3行目(1)、「地域力」は、各地区の地域経営会議の推薦委員と、「・・・」とありますが、構成の順位ではありませんが、「推薦委員」－「100人委員会」－「地域経営会議」の順で良いのでしょうか。</p>	策定プロセス
29	意見	<p>○7頁6行目(2)、「市民力は、いままでに培われてきた市民力をふまえ」とありますが、「市民力」の説明（拡大する説明ではありません）でありながら「市民力をふまえ」では、何を指しているのかが不明瞭です。「市民活動」、「市民自治」他、なのでしょいか。</p>	策定プロセス
30	意見	<p>○7頁の中段の説明では、これらの会議から直接（会議の意思として）総合計画審議会に対して建議することが可能と受けて良いのでしょうか。</p>	策定プロセス
31	意見	<p>○7頁の説明と8頁の相關図と表現を同じにする必要があるのではないのでしょうか。 例) 7頁では、「地域力から行政へ」は、意見・提案ではないのでしょうか。</p>	策定プロセス
32	意見	<p>・新総合計画基本構想（第2次素案）（案）の3頁で「地域づくり」を地区のまちづくりを表す言葉として使うとしていますが、7頁の中段には「地域まちづくりの方向性の検討」や「地域まちづくり計画（案）」等の表記があります。「地域づくり」と「地域まちづくり」は、使い分けをしているのでしょうか。</p>	策定プロセス
33	意見	<p>ちなみに全体で細かいことを言えば、5頁中央に実施計画：～実施するための計画～とありますが、あまりにも当たり前の説明で「実現するための計画」とか言い回しを考えた方がよいのでは。揚げ足を取るような意見ですが。</p>	策定プロセス
34	意見	<p>P 5 「地域市民」はよいが、地域まちづくり計画を策定する上で、対象は地域市民だけでよいのか。この表現だと以外の地域の市民は含まれていない印象を受ける。</p>	策定プロセス
35	意見	<p>P 1 0 都市広域連携 P 1 7 広域都市連携や広域連携とあり、統一した方がよい。</p>	策定プロセス
36	意見	<p>「私たちの政府」という言葉に抵抗があり、また、堅さを感じる。</p>	「私たちの政府」宣言

No.	区分	内容	出展
37	意見	「藤沢づくり」＝市全体のまちづくり、「地域づくり」＝「藤沢づくり」に対して、地区のまちづくり、と定義している。なら、地区≒地域という事になる。国（権限）→地方自治体＝地方分権なら、市（権限）→地区・地域＝地域分権ではないか。何故「地域内分権」と内がつくのか。市内分権なら理解するところですが。	「私たちの政府」宣言
38	意見	14ページの囲み 中央から地方への権限移譲を地方分権というなら地方政府である藤沢市が各地区（地域）に権限を移譲するのは「地域分権」ではないか。地域内分権は、各地区の中で、さらに行政から市民団体・民間などに権限を移譲する意味になるのでは。	「私たちの政府」宣言
39	意見	10ページの全体像 全体の構成を入れて分かりやすくなった。	「私たちの政府」宣言
40	意見	「私たちの政府」 総合計画審議会との合同協議の際にも意見がありましたが、「政府」という言葉は国・県・市の行政が用いている言葉であり、市民理解は難しいと思われま。例えば、「私たちが築く私たちのための政府～藤沢～」、「私たちが私たちのために私たちで創る藤沢政府」、少し長いですが。	「私たちの政府」宣言
41	意見	②P14の枠の中の「地域内分権」の地域内とは藤沢を指しているようだが、「地域分権」という表現でも良いのではないかと。（同様にP16とP17も）	「私たちの政府」宣言
42	意見	1. 「生活者の実感」で進める「藤沢づくり」 藤沢の未来をつくるためのヒントは、・・・点検・改善していくことが、 <u>未来の「藤沢づくり」</u> です。 ※未来のではなく、今進めようとしている「藤沢づくり」では	「私たちの政府」宣言
43	意見	○第2章のタイトル、「私たちの基本構想」は「私たちの」が入ることで、かえってその章に何が記してあるのかが想定しにくくなっていると思う。 「私たちの～」という表現は内容にでてくるので（「私たちの政府等」）、タイトルはシンプルに「基本構想」の方がよいと思う。 20年先を見据えた計画ですので、一時の状況だけの表現は控えたいものです。	「私たちの政府」宣言
44	意見	○P14 最終行に戦略的市政経営と有りますが、語感が馴染めません。 マスコミでよく使われているようですが、安心して落ち着いた表現が市の品格を表すことになろうかと思えます。安全で安心して住める町を目指す意味でも、穏やかな表現が好ましい。同じくP16の基本理念とその戦略。	「私たちの政府」宣言
45	意見	4 p11 地縁団体は、自治会・町内会に変更した方がよい。 地方分権の表記は、最新の情報にしたほうがよい。 コミュニティと行政が自律して行動し、の自律して行動とは、どのような意味か、どのような状態か。自律の考え方を明らかにしたほうがよい。	「私たちの政府」宣言
46	意見	5 p13 「生活者の実感」で進める「藤沢づくり」とあるが、生活者の実感は問題を発見する視点ではよいが、基本的な考え方で、打ち出して本当によいか。例えば、生活者の視点で進める、などのほうがよいのではないかと。	「私たちの政府」宣言
47	意見	隣接する地域との連携についてふれる必要があるのではないかと。	将来像と基本理念
48	意見	p16の地域間連携～協働による課題解決 p17の広域連携による行政サービスの効率化 ※御所見の場合は3市1町に隣接している、従って広域連携による課題解決というものが必要である。道路、環境、観光、まちづくり等である。	将来像と基本理念
49	意見	「基本理念1」地域経営による永続的市民主体の「藤沢づくり」を実現します 戦略1 地域経営 ～市民主体の「藤沢づくり」～ (2) 地域と行政が役割と責任を分担し、「地域市民」と13地区ごとの地域経営会議が主体となつて、地域ごとの協働と共創による独自の「地域づくり」を行います。 役割と責任はどこまでの範囲か具体的に説明してほしい。 委員は役割と責任について曖昧なイメージを持っている。	将来像と基本理念
50	意見	戦略4 クリーンな市政と信頼される市政 インターナル・コントロール改革でめざすものの一つとして、生産性を高め、成果をもたらすことがあることは、理解できるが、この戦略で謳っているクリーンな市政と信頼される市政という表現との整合や(1)情報公開・情報提供の締め言葉（・・・を進めます）との整合を考えると、第一次素案の表現のまま（行政の生産性・・・以下を削除）の方がいいのではないかと。 (2)行政の業務執行にあたっては、透明性・公平性・公正性と経済性・効率性・有効性の観点から、コンプライアンス改革（法令の遵守）やインターナル・コントロール改革（内部統制）を通じて、行政の生産性を高め、成果をもたらしていきます。 ↓ (2)行政の業務執行にあたっては、透明性・公平性・公正性と経済性・効率性・有効性の観点から、コンプライアンス改革（法令の遵守）やインターナル・コントロール改革（内部統制）を進めます。	将来像と基本理念
51	意見	II-1. 将来像 いま、私たちが「生活者の実感」として持っている思いを、20年後までに向けて実現させていくためには、課題の一つひとつに夢を込めた布石を打ち、 ※「生活者の実感」を実現するのではなく、そこから生まれる思いを実現させるのであれば、もうすこしいし説明が必要なのでは	将来像と基本理念
52	意見	6 p16、p17 戦略は推進方策とした方がよい。	将来像と基本理念
53	意見	P16 戦略2 「地域経営会議が中心となり」と書かれているが、問題解決の手法が説明不十分であり、問題解決を地域に委ねすぎでは？	将来像と基本理念

No.	区分	内容	出展
54	意見	P15 将来像について、いまま未来も住み続けたいまち「湘南ふじさわ」を定める。とあり、「成長社会から成熟社会へ」とあるが、明るく活力のある「湘南ふじさわ」が本市の将来像ではあまり魅力を感じない。	将来像と基本理念
55	意見	P17 地域内分権と地域市民などの判りにくい概念であり、「地域内分権と広域都市連携」の表示を工夫し判りやすくすべきである。	将来像と基本理念
56	意見	P19の(1) 高付加価値型研究開発産業やコミュニティービジネス、ソーシャルビジネスなどバランスの取れた産業構造の構築と地域に根ざした新しい産業の創出について ここでは、都市ビジョン3として記載されているが、都市ビジョン1と2との比較した場合、バランスから考えると、観光も視野に入れ、もう少し大きな領域で記載したほうが良いと思われる。 同時に、高付加価値型研究開発産業についても一般的な表現になじまないことや、一つの狭い領域である「コミュニティービジネス」、「ソーシャルビジネス」を並行的にここで記載することは、全体的なバランスから考えて具体的かつ小さすぎるとと思われる。 P21の7の「藤沢づくり」において記載されている内容があれば、経済部としては十分であると考えます。 したがって、「コミュニティービジネス」、「ソーシャルビジネス」の表現は、削除していただき、「高付加価値型研究開発産業」については、他の表現、例えば「研究開発型製造業」等に変更していただくか削除していただきたい。 案 P19の(1) バランスの取れた産業構造の構築と地域に根ざした新しい産業の創出	都市ビジョン
57	意見	【都市ビジョン1】 市民の力が育てる生活充実都市 日本社会は成長社会から成熟社会へ転換したとされていますが、「成長に限界なし」という言葉があるように、成長は経済の豊かさだけではありません。 ※「成熟社会への転換」と「成長は経済の豊かさだけではない」は何を意味しているのかわかりません。 P27では、成熟社会への変化と肯定しています。	都市ビジョン
58	意見	P18【都市ビジョン3】さらなる可能性を追求する創造発信都市 3段目から4段目 「藤沢の強み」を伸ばし、交通基盤、商業基盤、産業基盤、「藤沢」の知名度などに見られるとなっているが、何か文章が繋がっていないと思われる。 「藤沢の強み」を伸ばし、都市基盤や社会資本の視点から「藤沢」の知名度などに見られると修正したらどうか。	都市ビジョン
59	意見	4段目以降 都市のアイデンティティと魅力を新しい力として、持続可能な都市を形成することを都市のアイデンティティと魅力や民間施設の新たな活用など、持続可能な都市を形成と修正したらどうか。	都市ビジョン
60	意見	P22 8 公共資産の有効活用と社会資本の長寿命化 3段目 公共施設・都市基盤施設の老朽化の時期を 公共施設・都市基盤施設の更新期や老朽化の時期をに 4段目 既存施設の保全、再構築 既存施設の点検や保全、再構築に と加えたらいかがでしょうか。	都市ビジョン
61	意見	7 p17 ビジョン3で、(1)(2)(3)は簡潔にして、本文に含めた方がよい。数字を入れるのはバランスが悪い。	都市ビジョン
62	意見	P20から、3つの都市ビジョンを実現方向性が9項目ありますが、項目の1～3は都市ビジョン1、4～6は都市ビジョン2、7～9は都市ビジョン3に当たるのではないかと思います(P10の図式からすると)、個々の区分がはっきりしていないので、文章が読みづらい・どれに当てはまるのか・何の実現の方向性かが解りづらい	方向性
63	意見	「福祉・医療」に対する基本目標が掲げられていない。	方向性
64	意見	超高齢社会を迎えるにあたっての「藤沢づくり」をめざす方向性はどうか。	方向性
65	意見	20ページ 基本理念と都市ビジョンに基づく「めざす方向性」は、これを基に基本計画、実施計画を定めるとある。「1 地域自律型の藤沢づくりを育むまち」の方向性について、他は領域を示しているが、この方向性は、理念に近いものであり、これをもとにどんな実施計画ができるのかイメージできない。	方向性
66	意見	p20の「3 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち」の内容にスポーツと健康が出てきますが、ここからは外して別立てにしたほうがよさしいのでは・・・又は、安全安心及びスポーツを通じた元気で健康なまちづくりにとか、「スポーツ振興で創る元気で健康なまちづくり」とか	方向性
67	意見	p21の7 「藤沢づくり」支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生 御所見住民にとっては最も関心の高い部分であるので深掘りしてほしい。 ※地域産業の活力再生(農業) ※道路、鉄道等の公共交通のネットワーク化 ※主要幹線道路沿いの開発(まちづくり)	方向性
68	意見	③P21の「4共に生き、共に創る・・・」の1行目の「高齢者、障がい者、社会的弱者、外国籍市民など」という表現は、これらの方が差別を受け、偏見を持たれていることを、あえて述べているように受け取れるので、例えば「全ての市民が社会的弱者に対して差別や偏見を持つことなく」というような方がよいのではないかと。	方向性
69	意見	④P21の「6地球温暖化防止など未来の地球環境への投資」の4行目「産官学による」は行政文書としては「産学官」の方が謙虚ではないかと。	方向性

No.	区分	内容	出展
70	意見	4 共に生き、共に創る地域社会の創出 高齢者、障がい者、社会的弱者、外国籍市民などを含めたすべての市民が、・・・ ※「社会的弱者」を、13Pでは「社会的に援助を必要とされている人」としています。この表現の方がよいのでは。	方向性
71	意見	○p21「4共に生き、共に創る地域社会の創出」という基本構想に合わせるため、障害者や外国籍市民、社会的弱者等少数者の意見を取り入れる機会をどう設けていくか明記すべきだと思います。	方向性
72	意見	P21 7「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生 ・海上交通のネットワークが必要とされているが、新たな都市構造の構築に結びつけるのは少し無理があるのではないかと。観光などの地域経済の活性化にまとめるほうが良いのではないかと。	方向性
73	意見	P21 市民力・地域力については、定義されているが、大学力・企業力とは？	方向性
74	意見	P21 「共に生き、共に創る地域社会の創出」の高齢者・・・の表現は微妙である。	方向性
75	意見	地域の独自団体に関する記述に際しては、文章下りの部分の内容確認をしてほしい。例えば、第1章III-2(40ページ20行目から23行目にかけて) ①パートナーシップ善行…「生活支援」→「高齢者の支援やコミュニティーの活性化」 ②雑学大学：「地域資源の発掘や地域の魅力づくり」→「地域の特色有る生涯学習の拠点づくり」	背景と現状
76	意見	新しい総合計画策定の必要性について P25ふじさわ総合計画2020の成果 4点目で、第3次行政改革にも取りこんでいることにも触れるべきだと思う。(時系列的にも第二次行政改革はH17年度までなので)	背景と現状
77	意見	先にも書いたとおり、基本構想は藤沢市の新たなvision～未来像～を示す藤沢市にとっては目指すべき高邁な理想を文章化するものですので、第3章にあるような「策定の必要性」をあえて章立てして書くと言い訳めいて受け止められかねない。書くなら第1章「はじめに」辺りにコンパクトにまとめて書くのが良いと思う。	背景と現状
78	意見	P40の「現状と課題」は細かい団体名、個人名など、基本構想に書くにふさわしいか。計画書段階で十分ではないのか。30年後を見越した20年計画という基本構想書というには書かれていることが小さい。この内容はこの場所に本当に必要か。 →(市民自治推進課)P40に具体的な市民団体が例示として記載されているが、他にも同様に活動している団体は多数ある。資料編とはいえ、市の基本構想にこういった団体名を記載するのはいかがかと思う。	背景と現状
79	意見	章立てとして、第3章が、第1章となるのも考えられると思うが。	背景と現状
80	意見	⑤P25の3段落目の3行目「藤沢市は卓越した市政運営によって」の表現は自画自賛ではないか。	背景と現状
81	意見	⑥P28の上から10行目「住宅スプロールのコントロール」 専門家は良いかもしれないが、市民目線では意味が分かりにくいので、もっと簡易な表現が良いと思う。	背景と現状
82	意見	○全体を読んで感じることは、市民にとっては、現在市が置かれている状況①人口の減少 ②都市基盤の老朽化等については、全く意識しないことです。この計画を市民に解りやすく伝えるには、第3章の内容を最初にもってきて、「今、藤沢市の置かれている現状はこうなんです。」と説明し、それを解決するために、この新しい計画を策定したという流れの方が良いと思います。	背景と現状
83	意見	○P25 下から2行目 しかしながら～策定した当時と異なり、想定をしえなかった を しかしながら～策定した当時は想定し得なかったに表現を改めた方よい。	背景と現状
84	意見	構成について ・基本構想の構成が整理されて、第3章に「藤沢づくりの背景と現状」とされているが、構成上、現状・課題は前段にもっていったほうがわかりやすいと思うので、第2章の前にもっていきべきでは。	背景と現状
85	意見	その他(P39ほか) ・今後の藤沢づくりを進めるには、自然環境の保全、創出を強く押していく必要があると思う。たとえば、P39の基本条件の(3)自然環境の保全形成には生物多様性への配慮、自然エネルギーの活用などの環境活動の記述を追加するなど、自然環境に関する記述の中には追加していくべきでは。	背景と現状
86	意見	8 p25 p3との違いをはっきりさせた方がよい。	背景と現状
87	意見	P34 基本条件-3社会資本の老朽化・陳腐化について 市保有の建築物の内容であり、市全体の民間建築物についても表記すべきである。	背景と現状
88	意見	P40 III-2 藤沢を取り巻く現状と課題について 市民主体のまちづくりの現状は、一部の市民団体の現状であり、藤沢を取り巻く現状と課題ではない。	背景と現状
89	意見	・26頁に「今後はさらに「企業という市民」にとって、魅力あるまちづくりというものを真摯に考えていかなければなりません。」とありますが、企業自らが「市民」としての立場で、地域経営やまちづくりに参画できるシステムもあるといいと思います。	背景と現状
90	意見	まず直接西北部にかかわる文面として39頁下から2行目「西北部地域における農・工・住が共生する環境共生拠点」についてですが、こんな拠点はありませぬ。西北部全体を指すとしたら、本市5つの都市拠点の1つである「健康と文化の森」の扱いはどうなってしまうのかなど。拠点というのはいささか絞った地域だと思います。また、「環境と共生する」という言い方は、都市マスタープランでもありますが、この場合はあくまで「共存する」という言い方になります。つまり、文面を考えれば、西北部マスタープランのとおり「農・工・住が共存する環境共生都市を目指す西北部地域」と言うことになります。ただ前後のつながりが悪くなるので全体の文面の変更が必要になります。	背景と現状

No.	区分	内容	出展
91	意見	P27 「まだ本市の体力のあるうちに、・・・」の表現は、瀕死の状況表現である。無くてもよいのではないか。	背景と現状
92	意見	地域まちづくりを述べるのであれば、地区の特性や課題の概略も必要と思われる。	その他
93	意見	すべての人が英語を読めるとはかぎらないので、表記（例えばThink Fujisawa, Act Togetherなど文中にかなり登場します）にはカナふりが必要と思われます。	その他
94	意見	誰にでも読みやすくするのであれば、言い回し、表記、仮名づかい、用語等新聞等の統一表記に沿った形にするなど、専門的な校正が必要と思われます。	その他
95	意見	内容が内容だけに、「格調高い」文章表現が良いのか、はたまた分かり易い「優しい」文章表現が良いのが、読み手側に意図がはっきり伝わる、あるいは年齢層の下限を設定したつくりにした方がよいのでは？	その他
96	意見	基本構想なので、具体例は不要と思われる。（他地区の状況はわかりにくい）	その他
97	意見	いわゆる「逆引き版」があると便利。	その他
98	意見	視覚障害者や聴覚障害者に対する配慮が必要と思われる。（素案づくりに参加できない。外国語に対しても、せめてダイジェスト版については同様と思われる）	その他
99	意見	第一次素案と比べわかりやすくなった。	その他
100	意見	（番外）地域まちづくり計画を策定するにあたってのスケジュールやそのための事務手続きについて早めに示してほしい。	その他
101	意見	囲みによる説明文 囲みの中の説明は分かりやすい。同じトーンで、本文自体が分かりやすくなればもっとよいと思います。	その他
102	意見	表記 文章全体が丸ゴシックでなく、見出しはゴシックで本文は明朝とか、字体を変えた方がアクセントがついて、見やすい気がする。	その他
103	意見	第一次素案より「分かり易くなった」との声が大半でした。その他は特にありません。	その他
104	意見	だれでもが読める基本構想 市民だれでもがある程度読みこなせるように小学校6年生程度で読めない文字、英語表記のものにルビをふる。ルビを振ると品格が下がるかもしれませんが、市民目線を求めるべきではないでしょうか。	その他
105	意見	市民に馴染みのない言葉への注釈 普段から行政が当たり前に使っている言葉でも市民には分からない言葉が沢山あります。注釈を余り付けると煩わしくなりますが、極力付けていくべきだと思います。誰のための基本構想かという視点が大切です。例えば、NPO、パブリックコメント、内部統制、スケールメリット、スクラップアンドビルドなどなど。	その他
106	意見	100人委員会及び合同会議の内容及び資料等を地域経営会議に報告するのは並大抵ではありません。従って、資料等(第二次素案)についてはわかりやすいダイジェスト版を下さい。中学・高校生向けも必要です。	その他
107	意見	①第一次素案に比べ、平易な表現となったが、まだ解りづらい表現や造語がある。 ②中学生程度が理解できる表現となることが望ましい。	その他
108	意見	○ 前回に比べて、内容が整理され、用語についても市民にとって解りやすい言葉になり、大変読みやすくなったと感じました。	その他
109	意見	全体を見るに、行政、センター・公民館、地域経営会議・地域市民の役割が一目でわかる資料編みたいなのがあれだと思います。主体に・中心に・連携し等の言葉が色々な場面で使い分けられていることにもよる。	その他
110	意見	この総合計画の内容とはちょっと観点が違いますが、この計画を読むにつれ地域経営会議の委員の負担は大変なもので「無償」でやるような委員会ではないのではないかと感じております。基本構想ですから内容については今後の基本計画に対応できると思いますのでこれで良いのでは。	その他
111	意見	内容的には、1次素案の問題は概ねなくなったと思われる	その他